キャラクター名: 神藤天音

プレイヤー名:

シンドローム	ノイマン ノイマン	ワークス	何でも屋	カヴァー	優等生(高校生)
オプショナル		年齢	17	性別	女
覚醒	生誕	衝動	闘争	初期侵食率	33 %
出自	名家の生まれ	経験	大成功	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	1	0			1
感覚	0		0	1		1
精神	6		0			6
社会	2		0			2

HP	28
行動値	8
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	12	
運転：			芸術：			知識：			情報：ｱｶﾃﾞﾐｱ	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
日本刀	白兵	6r	3	5		2本分　形状は「黒奏剣 『骸斬』」
ナイフ	白兵	6r	0	2		6本分　形状は「ノクスネシス」

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
Sランク：スペシャリスト	
ウェポンケース	
応急手当キット	
自転車	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
超血統	P	N		
ティナ・S・ハミルトン	P　尊敬	N　偏愛		
フェル・ソフィーティア	P　憧憬	N　偏愛		
雲雀宏一	P　尽力	N　食傷		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 28	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ｺﾝｾﾚﾉｲﾏﾝ	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	対決	-	
効果：	C値-LV(min7)							
ｺﾝﾄﾛｰﾙｿｰﾄ	1	2	〃	武器	-	〃	-	
効果：	白兵を精神で							
ｺﾝﾊﾞｯﾄｼｽﾃﾑ	1	3	〃	-	-	〃	-	
効果：	白兵D+(LV+1)							
マルチウェポン	1	3	〃	武器	-	〃	-	
効果：	攻撃力合算							
ｳﾞｧﾘｱﾌﾞﾙｳｪﾎﾟﾝ	5	3	〃	〃	〃	〃	-	
効果：	LV個まで攻撃力合算							
天性のひらめき	1	4	〃	-	-	-	-	
効果：	戦闘中以外でC値-LV(min7)							
写真記憶	★							
効果：								
暗号解読	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「はぁ・・・・・。もう面倒なんだけど」
「もう帰っていい？」
「仕方ない。いいよ、付き合ってあげる」

Bランクで毎日をだらけながら過ごす少女。
アカデミアに来る前まではただの面倒くさがりのほぼニート生活だった。特に小学校に行くまでもなく家でだらだらごろごろと生活するだけだった。何故なら大学の博士課程の授業まで既に理解していたからだ。そんな彼女を最初は神童だと言って持て囃したが、次第に気味が悪くなり忌み子鬼の子として嫌うようになった親類は全て彼女の事を白い目で見ていた。
転機となったのは彼女がアカデミアを知った時。アカデミアに行くと彼女は言った。すると見かねた両親が彼女のことを勘当した。親類全員一致の結果だと言って。そうして彼女は一人になった。最小限にまとめていた自分の荷物とお金を持って家を出た彼女はただ何のあてもなく街をさまよった。もちろん、警察に見つかれば補導されるため隠れながらではあったが。
そうした生活をしていると二人の女性が彼女の目の前に現れた。何でもアマネの事を養子にするらしい。小学生だったが頭は大人よりも回る彼女がまず最初に告げたのは「養子にすることで何のメリットがあるのか」だった。だが彼女達はこう返した。「困ってる子が目の前に居て、見逃すなんて選択肢は無いよ」。返答になっていないと答えるつもりだった。なのに涙があふれて止まらなかった。何故感情が高ぶったのか、今では分かるがその理由は心の奥深くに封印している。
彼女たち、フェルとティナの養子になってからアカデミアに入るまで、彼女達と幸せな暮らしを続けた。アマネにとって、こんなに幸せな時間は多分これからも無いと言い切れる位には幸せなものだった。アマネがやりたかったこと、やってみたいこと全て出来たからでもある。そんなアマネの生活習慣などにも良い方向へと変化が表れた。例えば今までであれば起きるのも面倒くさくなって部屋で籠りきりだったのが食卓を囲むようになったり、いつの間にか自分から外出するようになったり、どこへ出掛けるにしても笑顔になっていた。もちろんこんな生活が続くのはアカデミアに行くまでというのは理解していたが、フェルとティナはアマネに対して愛情を与え続けた。産まれたときから彼女に会うまでの時間を水飴の海に沈めるかのように。アマネ自身もその海に自分から飛び込み溺れていった。
その後アカデミアに入学し、自分がノイマンシンドロームを持ったオーヴァードだと理解した瞬間は少し苦しんだものの、フェルとティナもオーヴァードだと明かされて腑に落ちた。そしてオーヴァード能力テストにてSランクと認定されたが、アマネは根っからの面倒事は避ける派だったため非公開とし、Bランクに入学